

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770102275		
法人名	MCP株式会社		
事業所名	グループホームつどい「八巻家」二丁目		
所在地	福島県福島市上鳥渡字向山25-8		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービスが併設されており、デイサービスに踊りなどのボランティアの方が来所された時に、グループホームの利用者様も一緒に参加できるなど、グループとデイサービスの連携が図れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

レクリエーション運営は委員会で決めているが職員は計画にこだわらず、その日のレクリエーションを利用者の気持ちを汲んで書道や俳句創作など利用者の希望に変更するなど柔軟に対応して、利用者の意欲を刺激し、残存機能の維持に繋げている。散歩や行事などで地域と日常的な交流が行われ、住民から利用者の一人歩きの情報に寄せられたり、火災避難訓練では大勢の住民が参加して行われるなど、地域密着の理念が活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念である「つどい10の約束」を見えるところに掲示し、実践できるように心掛けている。	十項目にわたる介護サービス現場での利用者への対応姿勢を掲げた理念を、職員は朝のミーティングで各項目ごとに話し合い確認している。自分の介護支援が、正しく実践できているかを振り返ることで、共有化を図り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭等の行事に参加したり、ボランティアの方にこちらの行事に参加していただいたりし、交流を取っている。	町内会に加入し、地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、事業所の夏祭りに住民を招くなど交流を深めている。ボランティアや幼稚園児が訪れて歌やダンスを披露して、利用者とは交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加することで、施設の存在を知っていただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、事故報告を行い、ご家族様や民生委員様より、アドバイスなどを頂いている。	会議では事業所の現状を報告し、意見を聞いている。最近では地域にできた介護カフェについて外部委員から積極的に情報を収集し、餅つきを行う際には道具の確保や利用者の危険防止策のアドバイスを受け、サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿福祉課の担当者や生活福祉課の担当者の方と電話などで連絡を取り合い、月に何度かは市役所に訪問するように取り組んでいる。	介護関係の法律相談や市の介護方針の確認、あるいは利用者の生活保護更新申請の代行について、防犯カメラの設置や職場改善の情報収集など、積極的に相談し連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止に向けた研修に参加しさらに勉強会を開くことで、職員全体で防止するよう努めている。	ベッド柵を少なく、出入り口の施錠解除、スピーチロックなど身体拘束はしない、を方針にして取り組んでいる。県主催の研修会や法人の勉強会に参加して身体拘束をしないケアについて学んでいる。参加者はミーティングで報告し、職員と内容を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待はもちろんだが、言葉による心理的な虐待でご利用者様が不安になったりしないように職員同士で日頃から注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見人制度を利用されていた方がいるので、基本的には把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実態調査に行った際にも、不安なことや分かりにくい点が無かったかを確認している。十分に説明したのち、納得いただいた時点で契約に移るよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	イベントや外食レクに参加頂き、意見を頂いている。	利用者の入居時、その後も家族の面会時に意見や要望を聞き、確認している。家族が遠方の場合には電話で聞いている。ラーメンを食べたいとの要望に、外食レクリエーションを企画して行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや自己評価にて、意見を聞く機会を設け、反映している。	定期的に毎月のミーティングや自己評価表を使用し、面談の機会に職員の意見を聞いている。日常的には日々の現場で、その都度聞いている。暖房機器など備品の更新やレクリエーションの運営に職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調不良などで欠員が出たときなど、職員同士助け合うことで、無理なく勤務できるようにしている。さらに、職員からイベントなどの提案があった際には、協力し実施できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する機会を増やし、さらに勉強会を開くことで、様々な情報や知識を共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修などの研修を通し同業者と交流するなかで、自分自身の考え方の幅を広げられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居したばかりの利用者様には、施設のことを説明し、他の利用者様とコミュニケーションを取りやすいよう職員が間に入っている。また、職員も実態調査をもとに事前の情報を共有できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に聞き取り調査を行い、ご家族様の要望を吸い上げてケアプランなどに反映している。また、その後も面会に来た際に、新たに希望などないかを確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査からニーズを導き出し、ケアプランを作成しそれに添ったケアを実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やレクリエーションなどを一緒に行うことで、本人が活躍できる場を提供し、信頼関係を構築出来る様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時、または電話にて定期的にご利用者の状態を報告し、要望があるかをその際に確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と一緒にまたはご家族様も一緒にお墓参りに行くなどしている。また、知人の方との面会でもゆっくり過ごしていただけるように努めている。	利用者の元職場の同僚が訪ねて来た時はゆっくり話せるよう居室に案内し、お茶や菓子を提供している。訪問の少ない家族には電話や郵便で訪問を要請している。自宅周辺にドライブしたり、外泊時には薬や下着類を整えるなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、仲介役となるようしている。関係性が少しずつ出来てきたら、介入の必要性を見極めながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される前に次の行き先の提案や相談に乗っている。また、退居された後も相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様との会話や一日の様子を観察し記録に残している。それらをもとにカンファレンスを行い、職員全体で把握出来るように努めている。	入居時に本人と家族から聞き取りし、確認している。入居後は、塗り絵や書道のレクリエーション時や中野不動尊へ参拝など外出の機会を利用して本人の思いを直接聞いたり、その時々表情や反応を見て意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様面会時に、家で過ごしていた時の様子を聞き、施設においても出きるものはないか検討し実施できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能の活用を目指し、また日々変わっていくご家族様の状態を見逃さないように一日の様子をまとめたものを職員全体で共有できるように気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月ごとにご利用者様からの希望を聞き取り、カンファレンスを行い、プランを作成している。	利用者の状態変化に沿った介護計画の見直しに取り組んでいる。その際は介護計画作成担当者やフロア責任職員、医師の意見を交えて判断し、家族と協議して見直し案を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子を随時、記録しケアに活かしている。また、職員間での申し送りノートを作成し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に応じて、ケアプランの見直しを行い、その時その人に必要なケアを提供出来る様心掛けている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭等への出展を目指し、作品作りや地域との関わりを持ち続けることにより、生活を活性化するようにしている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医と協力医から選択して頂いている。定期的な往診にて健康管理をして頂いている。	入居前のかかりつけ医での継続受診を基本にしている。本人・家族と話し合い、協力医院に切り替える場合もある。内科などの継続受診については家族対応だが、皮膚科や眼科などは事業所が対応している。結果は家族に連絡し共有している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への申し送りノートを作成し、受診などの結果や相談事項を記入している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーと情報交換しながら、状態の把握に努めている。また、職員が直接病院へ行き状態の把握に努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に備えご家族様との話し合いを行い方針を検討している。	入居前に家族の要望を聞き、事業所が出来ること出来ないことを説明して方針を共有している。食事がとれない、誤飲するなど状態変化した場合は家族と相談して、入院、退所など方針を再検討している。看取り時は家族支援も含めて取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに添っての対応、または管理者への報告にて、指示を仰いでいる。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルに添って、いつでも対応できるように準備している。	年2回の火災避難訓練を行っている。1回は消防署員立ち会いで実施している。避難訓練は町内会と連携して行われている。火災発生の連絡電話が自動的に町内会役員に通知され、避難場所は決められ、避難誘導に20～30人の住民が参加している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりに適した声掛けを行い、尊厳を尊重している。また、ミーティングや勉強会を行い、接遇の向上を目指している。	声かけはです、まず調を基本に、親しみを込めた話し方で利用者の人格と尊厳を大切にしている。入室の際はノックをして声を掛けてと、プライバシーに配慮している。2、3ヶ月毎に職員会議で接遇の勉強会を行い、向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場を出来るだけ多く持てるよう、本人の希望を選択出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事など本人主体で決めていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し希望に添って身だしなみを整えている。また、買い物に行く機会を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的な外食レクや、おやつ作りレクを行っている。おやつ作りレクの際にはご利用者様にも手伝ってもらったりしながら楽しめるように工夫している。	決まったメニューに拘らず、食事を楽しめるように様々な工夫をしている。お正月には餅つき、花見では団子に甘酒、ビールもといったような行事食、ラーメンや回転寿司、ハンバーグなどの外食、レクリエーションにドーナツ作りと、毎月、楽しい食事の企画を実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じた食事形態や量を提供している。また、毎月体重測定をしチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの促しを行っており、個々の能力に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、リハビリパンツ、パットを使用している方にも促しを行い、気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者がそれぞれ無理なくトイレで排泄できる、を目標に取り組んでいる。トイレでの排泄は離床効果もあるとして、排泄チェック表などを活用してトイレに誘導している。誘導時は、利用者の希望、思いを受け止めて柔軟に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり、体操を行ったり対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入浴が出来るようにしており、時間は決めていない。入浴前に声掛けを行い、了承を得てから行っている。入浴剤を使用しリラックスして入浴してもらるようにしている。	毎日、午前午後を問わずいつでも入浴できる、を基本にしている。利用者に、いつ入りたいか、希望を聞きながら入浴してもらっている。嫌がる場合は、ゆっくり、あせらず、時間をずらして声かけして入浴を勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転に注意しながら個々のペースで休憩を取ってもらっている。ベットをギャッチアップをしたり、クッションを使用したり楽な姿勢で休んでもらえるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報により内容確認をしている。また、医師と連携し状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居される前からしていた趣味や習慣、嗜好品はできる限り入居後も楽しんで頂けるよう努めている。食事の用意や洗濯物の片付けなど、お手伝いをしてもらうことで生活にメリハリが出来るよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブの機会を出来るだけ多くもつよう心掛けている。ご利用者様個人個人の希望もご家族様と相談し協力して行えるよう努めている。	火災時に避難場所になっている近所の公園に利用者全員が散歩に出かけている。買い物を望む場合は少人数で外出して買い物をしている。花見や紅葉狩りにはドライブし、外泊や墓参りには家族と連携して外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能なご利用者様には買い物の際に好きなものを購入して頂いている。難しい利用者様の買い物は希望を聞き、できる限り添えるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は時間帯にもよるが、手紙もできる限り、ご利用者様の要望に心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感をだすために壁紙の飾付けを変えたりしている。清潔を常に心掛け、温湿度計を設置し、居心地良く過ごしてもらえよう気をつけている。	食堂や居間の共用空間は暖房と加湿器で適温に保たれている。正月には凧を、端午の節句に向けた手作りの鯉のぼりと季節感を作り出している。吹き抜けの共用空間からは広い窓越しに吾妻連峰が眺められ、ゆったりと生活出来るよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気に会う人同士で同じテーブルで過ごせるよう工夫している。また、TV前やスタッフルーム前でも過ごせるように椅子を置き、気軽に利用してもらえようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	入居の段階でご家族様に馴染みのものがあれば、持ってきていただける様に説明している。居室に写真や好きな物を置くことにより、自分らしさを感じれる空間を作れるよう心掛けている。	利用者は居室に自宅に居たときと同じようにベッドや布団を持ち込んでいる。備え付けの整理ダンスの他に、利用者は思い思いの家具やテレビ、家族写真などを持ち込み自由に飾り付けたり配置をし、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを取り付けてあり、安全に歩行できるようにしている。洗面台やキッチンの高さも高齢者用になっている。また、トイレも車イスが入れる広いスペースになっている。		